

令和2年度 事業報告書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

一般財団法人 東洋医学研究所

令和2年度については、当財団の事業目的ならびに当初の事業計画に基づき、下記のとおり、会議及び各事業を実施した。

記

I 公益目的支出計画

1. 公益目的支出計画実施状況

① 期首公益目的財産残額	70,845,002 円
② 公益目的収支差額	1,504,284 円
公益目的支出額	1,504,284 円
公益目的収入額	0 円
③ 期末公益目的財産残額	69,340,718 円
(当初計画との差異)	▲495,917 円)
④ 公益目的支出計画の完了予定期末日	令和45年3月31日

※ 公益目的支出計画 (参考)

公益目的財産額 (当初)	81,586,635 円
公益目的収支差額見込額 (期間中平均)	1,690,000 円
公益目的支出計画の完了予定期末日	令和45年3月31日
公益目的支出計画実施期間	49年間

2. 公益目的財産額・純資産額推移

(単位：円)

	公益目的支出計画	公益目的財産額①	純資産額②	②—①	(医療+法人損益)
H26/3 末	81,586,635	81,586,635	81,586,635		
H27/3 末	79,896,635	79,977,621	86,857,118	6,879,497	6,879,497
H28/3 末	78,206,635	78,262,165	86,331,219	8,069,054	1,189,557
H29/3 末	76,516,635	76,823,371	86,847,337	10,023,966	1,954,912
H30/3 末	74,826,635	74,776,055	86,142,392	11,366,337	1,342,371
H31/3 末	73,136,635	72,954,915	81,569,612	8,614,697	▲2,751,640
R 2/3 末	71,446,635	70,845,002	76,138,989	5,293,987	▲3,320,710
R 3/3 末	69,756,635	69,340,718	74,411,631	5,070,913	▲223,074

※ 公益目的財産額を純資産額が下回らないことが必要

II 会議

1. 理事会

(1) 第1回理事会 決議の省略に基づく開催（定款第38条）

理事4名全員より同意書、監事1名より確認書の提出有 決議日：令和2年6月4日（木）

- (議事) 第1号議案 令和元年度事業報告書（案）の承認について
第2号議案 令和元年度決算報告書（案）の承認について
第3号議案 公益目的支出計画実施報告書（案）の承認について
第4号議案 令和2年度定時評議員会開催について

(2) 第2回理事会 令和3年3月11日（木）

- (出欠) 出席：理事4名、監事1名
(議事) 第1号議案 令和3年度事業計画（案）について
第2号議案 令和3年度予算（案）について
報告事項 令和2年度業績見通しについて

2. 評議員会

(1) 第1回（定時）評議員会 決議の省略に基づく開催（定款第21条）

- (出欠) 評議員3名全員より同意書の提出有 決議日：令和2年6月30日（火）
(議事) 第1号議案 令和元年度事業報告書（案）の承認について
第2号議案 令和元年度決算報告書（案）の承認について
第3号議案 公益目的支出計画実施報告書（案）の承認について
第4号議案 任期満了に伴う監事の選任について

(2) 第2回評議員会 令和3年3月11日（木）

- (出欠) 出席：評議員3名、理事4名、監事1名
(議事) 第1号議案 令和3年度事業計画（案）について
第2号議案 令和3年度予算（案）について
報告事項 令和2年度業績見通しについて

III 人事

令和2年6月30日任期満了に伴い、監事の選任を以下の通り行った。

(就任) 監事：前久保 直紀（重任）

任期：令和2年6月30日から令和6年6月開催の定時評議員会の終結の時まで

IV 公益事業（研究・啓発部門）

1. 研究部門

当研究所の目的である東洋医術の医学的研究活動を、基礎及び臨床におけるテーマに基づき、鍼灸並びに柔道整復分野の所内研究グループにて実施し、その成果について学会発表・学会誌投稿等を行った（計22題）。各グループの研究内容は以下の通り。

[鍼灸分野]

(1) 鍼灸臨床研究班（火曜班研究グループ）

（研究員：小島孝昭主任研究員、筒井宏史研究員、丸山広美研究員、中野陽子研究員、鈴木格研究員、伊丹章人研究員、橋本隆研究員、谷口授研究員）

- ※ 「身体局所における皮膚痛覚閾値の比較」に関して、対象部位を腰部・腎兪穴とし、温熱刺激による応答性の観察を行った。
- ※ 温熱刺激装置で作成した熱刺激による低圧期膀胱内圧への影響並びに TRPV1 受容体の関与の検討
研究結果発表は以下の 1 題。

① 第 69 回全日本鍼灸学会学術大会（京都大会）【令和 2 年 8 月 1 日】

「低圧期膀胱内圧に対する灸様刺激の反応に TRPV1 受容体は関与する」

（抄録発表（全日本鍼灸学会雑誌 70 巻 3 号）：谷口研究員、東京都健康長寿医療センター研究員として）

(2) 東洋医学研究班（木曜班研究グループ）

（研究員：木戸正雄主任研究員、光澤弘研究員、水上祥典研究員、東垣貴宏研究員、武藤厚子研究員）

- ※ 「脈診の研究」及び「経絡系統治療システム」を継続して研究。
論文発表、依頼講演等は以下の 4 題。

① 第 69 回全日本鍼灸学会学術大会（京都大会）【令和 2 年 8 月 1 日】

「脈診訓練法の開発（第 20 報）-脈状における弦脈の古典文献からの検証-」

（抄録発表（全日本鍼灸学会雑誌 70 巻 3 号）：水上研究員、木戸主任研究員、光澤研究員、武藤研究員）

② 第 69 回全日本鍼灸学会学術大会（京都大会）【令和 2 年 8 月 1 日】

「「天・地・人治療」の臨床応用（第 2 報）-「新治療システム」が気管支炎に奏功した例-」

（抄録発表（全日本鍼灸学会雑誌 70 巻 3 号）：武藤研究員、木戸主任研究員、光澤研究員、水上研究員）

③ 第 48 回日本伝統鍼灸学会学術大会（東京大会）【令和 2 年 11 月 15 日】

「風寒表証に対する天地人治療」

（ビデオデモンストレーション：木戸主任研究員）

④ 「東洋鍼灸医学 経絡治療」第 224 号 15～22 頁【令和 3 年 2 月 15 日】

「脈診を初めてはじめる人のために 第 22 報 -六部定位脈診が困難な場合の証立て-」

（論文発表：水上研究員、木戸主任研究員、光澤研究員、武藤研究員、東垣研究員）

(3) 基礎研究班（土曜班研究グループ）

（研究員：川瀬明子研究員 共同研究者（東京有明医療大学）：高倉伸有教授、矢島裕義准教授、高山美歩講師）

- ※ 「鍼灸および経皮通電刺激が体性運動神経（VFR）に及ぼす影響」、「Double-blind 鍼のマスキング効果」、「鍼の臨床研究」を継続して研究。
以下の 1 題の投稿。

- ① Alternative Therapies in Health and Medicine.2020 Online ahead of print
AT6433

「Effects on Acupuncturist Blinding: Different Diameters of Double-blind
Acupuncture Needles」

(「ダブルブラインド鍼による鍼灸師のマスクング効果について」)

(論文投稿：川瀬明子研究員 共同研究者 (東京有明医療大学)：高倉伸有教授、矢野裕義准教授、
高山美歩講師他)

(4) 経穴認知班

(研究員：小川一主任研究員)

※ 「経穴取穴及び経穴刺鍼に必要な身体操作の確立」を継続して研究、また触覚デ
バイスを利用した鍼の刺入トレーニングシステムのプログラム再構築を実施継
続中。

研究結果発表は以下の1題。

- ① 第69回全日本鍼灸学会学術大会 (京都大会) 【令和2年8月1日】

「胃脘・胆経上の陥凹感内部のエラストグラフィによる可視化-仮想の刺鍼訓練
に向けた軟らかさの考察-」

(抄録発表 (全日本鍼灸学会雑誌 70 巻 3 号)：小川主任研究員、共同研究者 (岩手県立大学)
土井章男教授)

(5) 臨床治療班 (附属鍼灸院研究グループ)

(研究員：吉川信主任研究員、寺師健研究員)

※ 鍼灸治療の前後の自律神経機能及び心理状態を測定し、「鍼灸刺激が心理状態に
及ぼす影響について」を検討・考察した。発表や投稿等は以下の14題。

- ① 東京女子医科大学先端生命医科学研究所・第51期バイオメディカル・カリキュラム
【令和2年4月18日】

鍼灸講義 (講師：吉川主任研究員)

- ② 「不調を食生活で見直すための からだ大全」(NHK出版) 【令和2年11月】

「自分でできるツボ押し」(吉川主任研究員)

- ③ 「素敵なあしたへ 4月号」(協和発酵バイオ情報誌) 【令和2年4月】

「歯の痛みを和らげるツボ」(吉川主任研究員)

- ④ 「素敵なあしたへ 5月号」(協和発酵バイオ情報誌) 【令和2年5月】

「顎関節の違和感を解消するツボ」(吉川主任研究員)

- ⑤ 「素敵なあしたへ 6月号」(協和発酵バイオ情報誌) 【令和2年6月】

「ヒザの関節痛を和らげるツボ」(吉川主任研究員)

- ⑥ 「素敵なあしたへ 7月号」(協和発酵バイオ情報誌) 【令和2年7月】

「眼精疲労を解消するツボ」(吉川主任研究員)

- ⑦ 「素敵なあしたへ 8月号」(協和発酵バイオ情報誌) 【令和2年8月】

「吐き気を和らげるツボ」(吉川主任研究員)

- ⑧ 「素敵なあしたへ 9月号」(協和発酵バイオ情報誌) 【令和2年9月】

「頻尿や膀胱炎の症状に効くツボ」(吉川主任研究員)

- ⑨ 「素敵なあしたへ 10月号」(協和発酵バイオ情報誌)【令和2年10月】
「腰痛を和らげるツボ」(吉川主任研究員)
- ⑩ 「素敵なあしたへ 11月号」(協和発酵バイオ情報誌)【令和2年11月】
「のどの痛みを和らげるツボ」(吉川主任研究員)
- ⑪ 「素敵なあしたへ 12月号」(協和発酵バイオ情報誌)【令和2年12月】
「つらい肩こりに効くツボ」(吉川主任研究員)
- ⑫ 「素敵なあしたへ 1月号」(協和発酵バイオ情報誌)【令和3年1月】
「急な動悸を鎮めるツボ」(吉川主任研究員)
- ⑬ 「素敵なあしたへ 2月号」(協和発酵バイオ情報誌)【令和3年2月】
「冷えによる腹痛を和らげるツボ」(吉川主任研究員)
- ⑭ 「素敵なあしたへ 3月号」(協和発酵バイオ情報誌)【令和3年3月】
「めまいやふらつきを緩和するツボ」(吉川主任研究員)

[柔道整復分野]

(6) 基礎医学研究グループ (柔整)

(研究員：福井孝幸研究員)

※ 従来からの研究テーマ「筋の筋組成や代謝(ATP、脂質等)の分析」は休止中

(7) スポーツ・柔整研究グループ

(研究員：山口竜彦主任研究員、下地秀和研究員、田中康文研究員、赤羽泰彦研究員、勝村洋介研究員、飯野元研究員、手島遼太研究員)

※ 「高校生スポーツ選手の身体特性と外傷との関連性の調査・研究」を継続して研究。
以下の論文投稿を行った。

① 一般社団法人日本体力医学会 英文学会紙「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine」

「Relation between low back pain and physical characteristics in high school male soccer players」(「高校男子サッカー選手の腰痛と身体特性の関係」)

(論文投稿：手島研究員、山口主任研究員 共同研究者(東京有明医療大学)：小山准教授、福田助教)

2. 啓発部門

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、例年実施していた以下の講座、セミナーをともに中止とした。

(1) 臨床技術研修講座

はり師、きゅう師及びあん摩マッサージ指圧師の各資格保有者を対象とした技術向上と研究者育成を目的とした講座。

※ 令和元年度は「第42回臨床技術研修講座」として計10回開催

(2) 健康セミナー

当財団の目的である東洋医学の普及啓発のため実施する健康をテーマとしたセミナー

※ 令和元年度は計3回開催(通算第11回～第13回)

V 収益事業（臨床部門）

附属クリニックは、地域住民への医療サービス提供のため、昭和 50 年 1 月に開設し、その名のとおり、西洋医学と東洋医学の融合を図り、内科においては病気・疾患の治療はもちろんのこと、漢方薬を通じた病気の予防、病後の健康回復、慢性疾患の改善等の治療を行っている。また、整形外科では腰痛やひざ・足の痛み、捻挫・骨折といった外傷以外に、スポーツ整形にも力を入れている。更に平成 26 年 4 月からは自由診療の自然医療部門が加わり、様々な症状の患者様に対応している。

令和 2 年度のクリニックの運営状況は以下のとおり。

来院患者数は各診療科とも減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も加わり、前年度比 27.8%減と 8 期連続での減少となった。それに伴い、診療報酬は保険診療部門で 281 万円（24.3%）の減少、鍼灸部門では担当者退職（令和 2 年 3 月）により、96 万円の減少となった。自然医療分門でも前年度比 215 万円（17.5%）の収入減となり、医療事業収入全体では前年度比 591 万円（8.9%）の収入減となった。

一方で支出については、薬品類の仕入れ減少、医師給与削減、ビル保守料の負担減、前年度の特異要因（パソコン入替）がなくなったこと等の影響により、経常外費用を含め、前年比 828 万円（26.4%）減少し、収支額は前年度比 237 万円赤字が縮小し、426 万円のマイナスとなった。

今後についても、患者数の動向は楽観できる状況ではなく、設備の老朽化や治療用機器の修理、各システム入替需要を勘案すれば、引き続き厳しい環境にあると思われる。

以上